

## 第 36 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 28 年 6 月 24 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：ネパール地震の復興とその支援

1. 16:30-16:50 （発表 20 分）

タイトル：「ヒマラヤ地域の社会と災害」

話題提供者：池田 菜穂（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）

ヒマラヤ高地住民の生業活動と災害対応について研究活動をおこなってきた視点から、多民族国家としてのネパール社会の特徴と、カトマンズなどの都市部からのアクセスが最も長い高山帯（標高が概ね 2500m 以上の地域）における生活環境を紹介する。それらを踏まえ、ネパールの山岳地域での減災の推進のために、どのようなアプローチが有効なのかを考える。

2. 16:50-17:10 （発表 20 分）

タイトル：「ネパール地震の保健医療対応とこれからの課題」

話題提供者：江川 新一（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）

ネパールでは災害時に保健医療従事者がどのように行動すべきかの HOPE プログラムがあり、各病院は多数の外傷や他の医療ニーズを受け入れ感染症予防に力を注いだ。国内外の医療支援はネパール政府と WHO がヘルスクラスターを運営し、調整のとれた保健医療支援を行い、外傷、母子保健、リハビリ、メンタルヘルスに重点がおかれた。今後、栄養、公衆衛生、安全な病院、都市と遠隔地の格差の是正が課題である。

3. 17:10-17:30 （発表 20 分）

タイトル：「ネパールの住まいと町並み復興に向けた課題」

話題提供者：竹内 泰（東北工業大学 工学部 建築学科）

ネパールのカトマンズ盆地は、ネワール族による稠密な都市空間で知られ、中世的な町並みとそれを生み出した人々の独自の生活様式が、いまでも多くの人を魅了し続けている。2015 年ネパール・ゴルカ地震によって被災した町並みに焦点をあて、それらが今後どのように復興していけるのかを明らかにするため、2015 年に 4 地区において 2 回の調査を行った。その調査結果をもとに住まいと町並み復興にむけた課題について考察する。

4. 17:30-17:50 （発表 20 分）

タイトル：「ネパール地震の住宅復興計画と NGO の支援」

話題提供者：マリ エリザベス（人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野）

吉川 彰布（一般社団法人ヒトレン）

2015 年のネパール地震の復興のため、復興庁が設置されたが、行政の不安定さにより、復興庁が計画している事業（住宅再建支援を含む）のスタートが遅れた。地震から 1 年後に、個人むけの住宅支援の仕組みを公表した。この事業の詳細を、今年 4 月の現地調査で把握した。この調査により見えてきた課題を紹介し、さらに、行政の支援が行き届かない部分を担当する予定の NGO の活動を紹介する。また、日本の NGO ヒトレン（Alliance for Humanitarian Architecture）のネパール復興支援計画を紹介する。

5. 17:50-18:20 （質疑応答/総合討論 30 分）

6. 18:20-18:30 事務連絡など

司会・進行：江川 新一（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）